

キリトリ線
郵便はがき

料金受取人払

葛飾新宿局承認

2285

差出有効期間
平成17年6月
30日まで有効
(切手不要)

東京都葛飾区4-19-16
株式会社タカラ
広報室IR担当 行

1 2 5 8 7 0 1

株主メモ

決算期

3月31日(年1回)

利益配当金受領株主確定日

3月31日

中間配当金受領株主確定日

9月30日

定時株主総会

毎年6月

基準日

定時株主総会については3月31日
(その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。)

名義書換代理人

東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

郵便物送付先

〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問合せ先

TEL (03) 5213-5213 (代表)

同取次所

みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

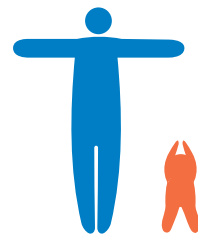
公告掲載新聞

日本経済新聞

ホームページアドレス

http://www.takaratoys.co.jp/

TAKARA®



TAKARA®

第50期 事業報告書

2003年4月1日～2004年3月31日

» Contents

株主の皆さまへ

当期の概況と次期の見通し／主力商品紹介／
おもちゃ四方山話

第2次中期経営計画

中期経営計画の主な取組み

連結主要財務データ

事業セグメント別概況

連結財務諸表

単体財務諸表／TOPICS

株式の状況／会社概要／株主メモ

キリトリ線

| | |
|---------|--|
| フリガナ | |
| ご氏名 | _____ |
| | _____ 満 歳 男・女 |
| ご住所 | 〒 _____ 都 道 府 県 _____ 市 区 郡 _____ |
| お電話番号 | (_____) _____ |
| 株式投資歴 | 1. 1年未満 2. 1年以上5年未満 3. 5年以上10年未満 4. 10年以上 |
| 当社株式保有数 | 1. 100株 2. 100株～300株 3. 300株～500株 4. 500株～1000株 5. 1000株以上 |
| 当社株式保有歴 | 1. 上場来 2. 平成 _____ 年 _____ 月より |

私たちタカラグループは、価値観の多様化や大人と子どものボーダレス化などにより、夢や感動を消費者に届ける手段が多様化している環境の下、着実な成長に向け、玩具を中核とした「ライフエンタテインメント企業」を目指し、中期経営計画に取り組んでまいりました。

第2次中期経営計画初年度の2004年3月期は、連結で前期比25%増の1,072億円と、過去最高の売上高を達成することができました。

さらに中期ビジョン達成に向けた戦略を展開する上で不可欠な、「体制づくり」という点でも大きな成果を出すことができました。2004年4月には、グループ会社間の管理、シナジーの追求といった横軸機能を強化するため、組織整備を行い、これにより、玩具と玩具を超えた幅広い分野へ、強い力を持って展開することが可能となりました。

2005年9月、私たちタカラグループは創業50周年を迎えます。

そういった意味でも2005年3月期、私たちタカラグループは、中期経営計画の達成に向けて「新たなステージ」への第一歩を踏み出します。玩具・周辺市場とライフエンタテインメント市場での収益向上、つまり「トップラインを伸ばす」こと、および他社との連携によるSCM[※]導入などによる高収益体質の実現、つまり「ボトムラインを伸ばす」こと、この二点を推進しながら、強いメーカーであり続けるためのビジネス構造の変革を模索してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、この「新たなステージ」へと踏み出すタカラグループにご期待いただくとともに、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
佐藤慶太

※SCM: Supply Chain Management

Operations at a glance



第50期(2003年4月~2004年3月)を振り返って

オリジナルコンテンツの充実を目指し、
玩具周辺事業の拡充を推進

2003年度のタカラグループは、主力である玩具分野に加え、オリジナルコンテンツを創造するフィールドであるゲーム・出版・映像分野への進出を図るとともに、キャラクターコンテンツと融合する事業チャンネルである菓子・カード・アパレル・コンテンツ配信などの玩具周辺事業の拡充に努めてまいりました。

タカラの代表的な、「リカちゃん」「チョコQ」「人生ゲーム」などのロングセラーコンテンツに加え、「バィブレード」「トランスフォーマー」「ビーダマン」などの優良ヒットコンテンツを加えた定番ラインが確実に厚みを増してまいりました。

また、オリジナルコンテンツの創造については、各グループ会社がそれぞれに強みを発揮し、新たな事業分野に強みを持つ会社を傘下に収めるなど、オリジナルコンテンツの湧き出る仕組みづくりが、構築されつつあります。

一方、海外市場においては、米国HASBRO社との業務提携の成果として、「バィブレード」「トランスフォーマー」が世界的なヒット商品となり、海外市場における売上を大幅に増加させることができました。

第51期(2004年4月~2005年3月)の展望

経営体質を強化し、業績回復に向けて邁進

2004年度のタカラグループの取組みとしては、まず国内事業の立て直しを最重要課題と位置づけ、国内事業統括本部組織の改編と、グループ事業計画の達成に向けた企業再編と管理強化に努めます。

そして玩具事業については、男児玩具では基盤の継続的な拡大に取り組み、女兒玩具ではヒットアイテムづくりへのてこ入れを図ります。また、オリジナルコンテンツの創造・定番化の仕組みづくりに取り組みほか、ライフエンタテインメント分野で話題商品を継続投入してまいります。

グループ企業については、(株)タカラアミューズメント施設事業の売却を含め、(株)ドリームズ・カム・トゥルー事業のタカラへの統合などを検討し、収益事業の有効活用と赤字子会社の抜本的な経営の見直しを行います。さらに、当期連結会計年度に連結に取り込んだ、(株)アトラス、(株)ブロッコリー、(株)ワコーをはじめ、日本電熱(株)、アステージ(株)の企業業績の回復に注力します。

以上を踏まえて、第51期の連結業績の見通しは、売上高1,200億円、経常利益50億円、当期純利益22億円を見込んでおります。

主力商品紹介



リカちゃん
©TAKARA CO.,LTD.2004



デュエル・マスターズ
TM and ©2004.wizards of the Coast/shogakukan,Mitsui/kids,shoPro



バトルビーダマン
©犬木栄治/小学館・タカラ・ディライツ・テレビ東京



flower cube
©TAKARA CO.,LTD.2004



トランスフォーマー
©2004 TAKARA・テレビ東京・NAS・ウィーブ



e-kara Web
©TAKARA CO.,LTD.2004
©2004 SSD CO.,LTD.

*本製品にはXavix®テクノロジーが使われています。Xavix®は、新世代株式会社の登録商標です。



おはなしせんせい
©TAKARA CO.,LTD.2004

おもちゃ四方山話

“チョコチョコ走るキュートなクルマ”をキャッチコピーに、1979年に誕生、1980年に発売された「チョコQ」は、2004年で生誕25周年を迎えます。

「今までに見たこともないクルマのおもちゃを作ろう!」。精巧でも動かないミニカーより、もっと動的で遊びの広がるクルマ玩具を作りたい、そんな開発スタッフの熱い思いからプロジェクトはスタートしました。開発の一番の難問だった

「動力源」は、当時、時代遅れのメカニズムとされていた手巻きゼンマイを超小型化することで対応。ほんの少し後ろにバックさせるだけで、自動的にゼンマイが巻かれる、画期的なエンジン「ブルバック・ゼンマイ」の誕生でした。

発売後わずか1年余りで販売数1,000万台を突破し、現在まで2,500種類以上、累計1億3,600万台の売上を誇る「チョコQ」は、親子2世代で愛されるロングセラー商品となっています。



「チョコQ」搭載のブルバック・ゼンマイ



現在、私たちタカラグループは、「玩具を中核としたライフエンタテインメント企業」の実現を経営の基本方針に定め、グループとしての強い経営基盤づくりと、成長のための事業基盤づくりを目的とした「第2次中期経営計画(2004年3月期～2006年3月期)」に取り組んでおります。

タカラグループ

TAKARA®

企画・開発、製造・販売部門

株式会社アトラス
日本電熱株式会社
ブラマイゼロ株式会社
株式会社ブロッコリー
株式会社ドリームズ・カム・トゥルー
アステージ株式会社
株式会社アイビーム
チョロキューモーターズ株式会社
株式会社ワコー
タカラインデックスラボ株式会社
TAKARA U.S.A. Corporation

生産部門

株式会社タカラいわき工業
TAKARA (HONG KONG) CO.,LTD.

アミューズメント部門

株式会社タカラアミューズメント

出版部門

ジャイブ株式会社

放送ネットワーク部門

タカラモバイルエンタテインメント株式会社

その他部門

株式会社タカラ総合サービス
フューチャー・リスク・コンサルティング株式会社

タカラグループが 目指すもの

玩具を中核とした ライフエンタテインメント企業

タカラグループが掲げる スローガン

スピード

チャレンジ

権限委譲とコミュニケーション

変革

中期経営計画達成のための 4つの戦略と1つの模索

戦略 ①

オリジナルコンテンツを創造し、世界戦略を強化
コンテンツ創造のフィールドとして、玩具・ゲーム・出版・映像の各事業を推進し、コンテンツの創造から、定番化+海外展開への戦略を推進してまいります。

戦略 ②

玩具と、玩具と相乗効果の高い周辺事業の充実
カード・玩菓・雑貨・コンテンツ配信・バストイレタリー・アパレル・ベンダー・模型等の周辺事業の充実をとおして、コンテンツの育成と収益力の向上を図ってまいります。

戦略 ③

ライフエンタテインメント企業としての新事業の成功と収益貢献の拡大
大人の遊び心に触れる商材の開発に向けて、家電事業・ホームセンター事業・IT事業・雑貨事業の成功と収益貢献の拡大を図っております。さらに、クルマ事業・映像事業・出版事業を戦略事業として推進しております。

戦略 ④

グループシナジー効果の最大化(売上高経常利益率10%を目指して)
企画開発機能・製造機能における情報の共有化とリスクの分散化を図り、財務機能・人事機能・間接専門機能におけるコスト削減体制の構築を検討してまいります。

模索 ①

ビジネス構造の変革
企画開発から製造・販売までのプロセスの多様化、最適化をキーワードに、さまざまな角度からビジネス構造の見直しを図ってまいります。

中期経営計画 数値目標

2006年3月期

連結売上高 1,500億円
売上高経常利益率 7.5%



戦略 ① オリジナルコンテンツを創造し、世界戦略を強化

オリジナルコンテンツ創造の仕組みづくりを推進

当社は、ゲーム・出版分野への進出、およびキャラクターコンテンツ事業の強化を図り、ゲーム分野では(株)アトラス、キャラクターコンテンツ事業では(株)ブロッコリーについて第三者割当による新株式の引受けを行い、両社を子会社化しました。2004年1月に、当社コンシューマーソフトウェア事業を(株)アトラスに事業譲渡し、これによりゲームソフトおよびアミューズメント事業の拡充が見込ま

れるほか、「ベイブレード」「デ・ジ・キャラットによ」などにおいてもビジネスパートナーだった(株)ブロッコリーとの関係強化により、世界に通用する優良なキャラクターコンテンツの開発にも効果が期待されます。

また、出版分野ではジャイブ(株)を設立し、キャラクターコンテンツを中心とした雑誌や書籍、グッズなどの製作販売を開始しております。

来期も引き続き、コンテンツの企画・開発力の強化に努めるとともに、収益力の拡大に取り組めます。



©ATLUS 2003,2004

©2004 TAKARA・テレビ東京・NAS・トランスフォーマー製作委員会 ©JIVE Ltd. All rights reserved.

戦略 ② 玩具と、玩具と相乗効果の高い周辺事業(カード・玩菓・雑貨・コンテンツ配信・バストイレタリー・アパレル・バンダー・模型)の充実

玩菓事業TOPICS

夢のコラボレーションが実現!
「村上隆のSUPERFLATMUSEUM」を販売

当社は、玩具とシナジー効果の高い周辺事業の充実を図るとともに、新しいライフエンタテインメント企業としての基盤づくりを進めています。その取組みの一環として玩菓事業では、2003年10月に(株)海洋堂、(株)ドリームズ・カム・トゥルー、(有)カイカイキキ、当社の4社共同で、日本を代表する現代美術アーティスト村上隆氏の作品を玩具菓子

にした、世界初のアート玩具「村上隆のSUPERFLATMUSEUM」を販売しました。この商品は、村上氏の美術作品が、高い技術力で現在の“食玩ブーム”を引き起こした海洋堂により精巧なフィギュアとなり、さらにそれが350円の玩具付菓子の“おまけ”になったことで大きく注目されました。また、企画段階から“アート”としての価値観にこだわり、認定証やシリアルナンバーを発行するなど、業界初の試みも行われました。お陰様で大変ご好評いただき、全商品が発売直後に完売となりました。



©Takashi Murakami/kaikai kiki. All Rights Reserved.

戦略 ③ ライフエンタテインメント企業としての新事業の成功と収益貢献の拡大

アートのように楽しめる家電を!
深澤直人氏との共同プロジェクト「±0」がスタート

「大人の遊び心に触れる商品開発を」。このスローガンの下、当社は(株)ダイヤモンドと、今最も目が離せないプロダクトデザイナー・深澤直人氏による共同プロジェクト「±0(プラスマイナスゼロ)」をスタートしました。企画・デザイン・製造・販売・コミュニケーションについて資源を共有・共用しながら、深澤氏がデザインディレクションを、当社とグループ子会社の日本電熱(株)が製造を、そして新設のプラマイゼロ(株)が販売を担当しています。コレクションの第1弾として、プロダクトアートをテーマに2003年12月より家電、AV機器、インテリア、雑貨などの製品を、主にホームページをとおして販売しております。

今後も引き続き、家電・電熱事業の企画・開発・生産力をさらに強化するとともに、新しいテーマに沿った第2弾、第3弾のコレクションを随時発表しながら、収益力の向上に努めます。

世の中をもっと楽しくする乗り物を!
ヤマハと「B PLUS」を共同開発、
新日石にメンテナンスと販売を委託

おもちゃメーカーならではの“遊び心”満載の乗り物を提供している当社は、ヤマハ発動機(株)(以下、ヤマハ)、新日本石油(株)(以下、新日石)と共同で、それぞれ新事業をスタートしました。

ヤマハと共同開発した電動ハイブリッド自転車「B PLUS」は、ヤマハの電動・制御技術のノウハウを活用して同社が開発・製造を行い、当社が企画・販売を担当。2004年3月の発売に先立ち、2003年11月には、ヤマハ

のオフロードモデル「DT200R」をモチーフにした限定モデル100台が予約販売されました。

また、2003年5月に折畳み式電動スクーター「tu」を発売。それに続いて2004年5月に新モデル「POPED tu」を発売するにあたり、当社は、新日石のサービスステーション・ブランド「Dr.Drive」にメンテナンスと販売を委託するため、新日石と業務提携契約を締結しました。タカラの商品開発力と新日石のメンテナンス技術の融合により、高品質の商品およびサービスの提供が可能に。これを契機に来期以降も、電気自動車事業のさらなる発展を目指します。



POPED tu ©TAKARA CO.,LTD.2004

戦略 ④ グループシナジー効果の最大化

経営管理体制の見直しで、シナジー効果を拡大

「シナジー効果の最大化」を実現するため、売上高経常利益率10%プロジェクトをスタートしたほか、事業関係会社の再編を含め、各社の経営管理の強化を行っています。また、コーポレートガバナンスに関しては、経営機能による監督機能の強化、コンプライアンス風土の醸成、内部情報管理の徹底、市場へのアカウンタビリティの向上、CSR[※]への取組み強化に努めてまいります。今期は、グループ経営の視点から、業務執行と経営監督を分離し、業務執行の責任強化とスピード化を図り、取締役会の構成を変更しました。

※CSR：Corporate Social Responsibility/企業の社会的責任

模索 ① ビジネス構造の変革



COREDO日本橋

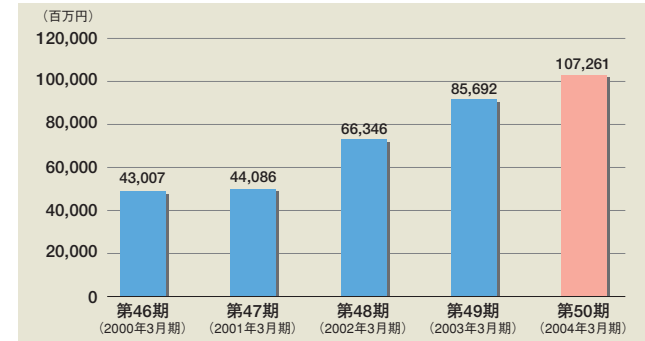
2004年3月30日、東京・日本橋の商業施設「COREDO(コレド)日本橋」内に、当社初の大型直営店「GARAGE(ガレージ)」をオープンいたしました。

「COREDO日本橋」は、日本橋の商業の伝統を活かしつつ、これを現代的スタイルに解釈して、衣・食・住・遊の生活シーン全般に渡り、个性的かつ魅力溢れるテナントにより構成されております。

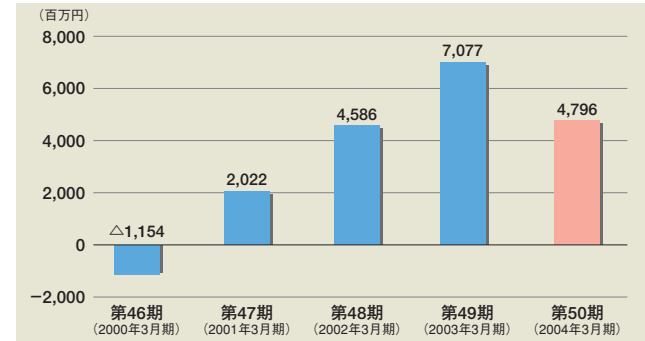
「COREDO」の名前の由来は、英語で「核」を意味する「CORE」と「江戸」「EDO」をつなげた造語です。

連結主要財務データ

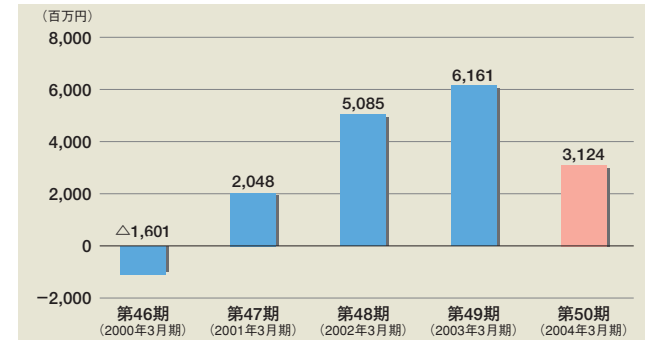
売上高



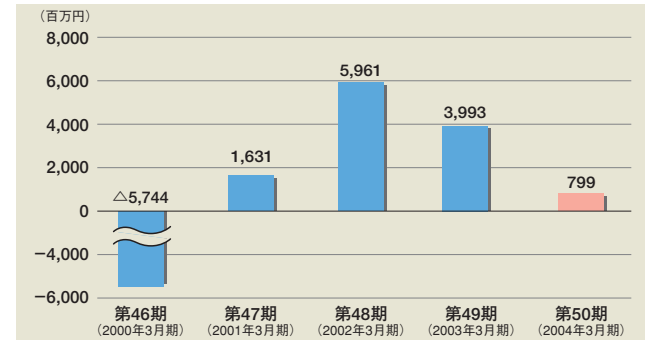
営業利益



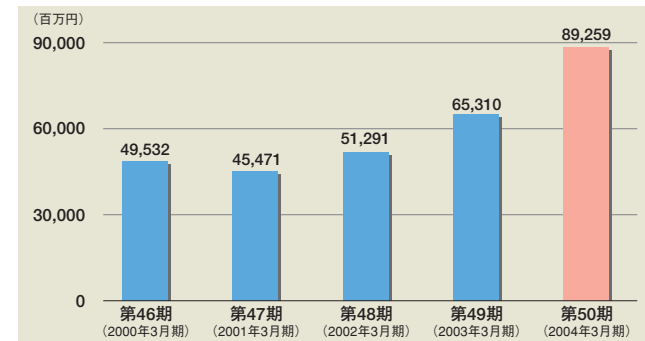
経常利益



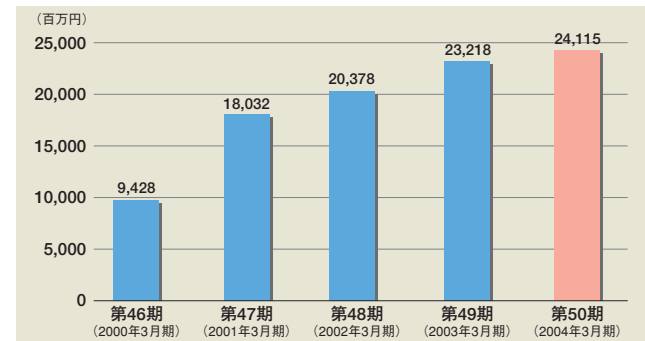
当期純利益



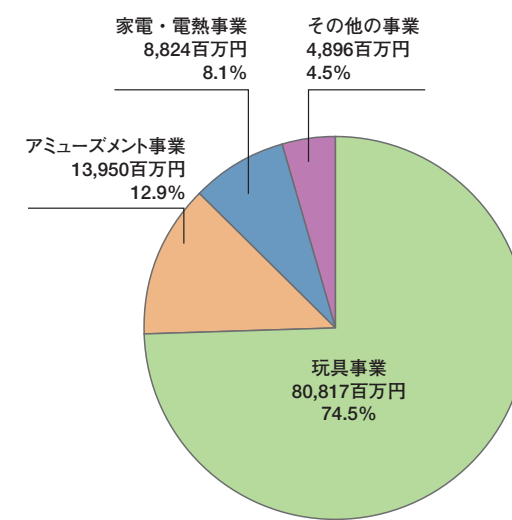
総資産



株主資本



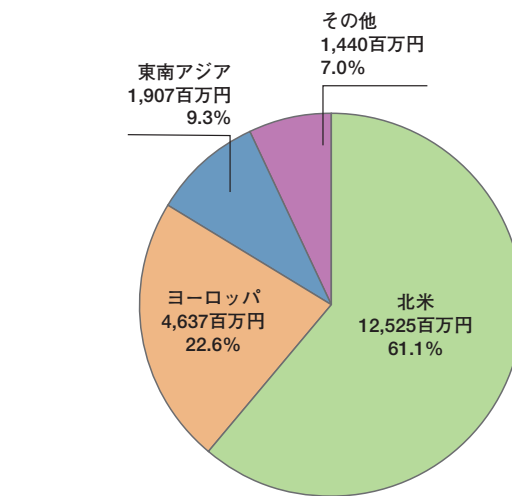
事業別売上高構成比



各区分に属する主要な製品

| 事業区分 | 主要製品 |
|------------|-----------------------------|
| 玩具事業 | 女兒玩具、男児玩具、各種ゲーム、一般玩具、その他 |
| アミューズメント事業 | アミューズメント施設の運営、アミューズメント機器 |
| 家電・電熱事業 | コンシューマー電化製品、家庭用暖房機器、産業用電熱機器 |
| その他の事業 | ホームセンター向け家庭用品、電気自動車、その他 |

海外売上高構成比



各区分に属する主な国又は地域

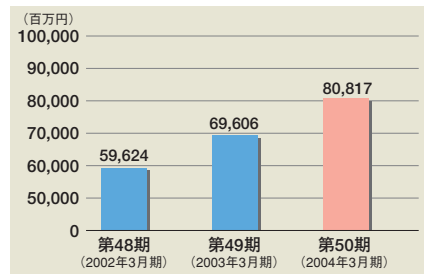
| | |
|-------|-------------|
| 北米 | 米国・カナダ |
| ヨーロッパ | イギリス・フランス |
| 東南アジア | 中国・香港・タイ・韓国 |

玩具事業

定番商品が好調で売上伸長

男児玩具では、平成14年に発売したカードゲーム「デュエル・マスターズ」の売上が好調に推移したほか、「ベイブレード」「トランスフォーマー」が海外で大きく売上を伸ばしました。女兒玩具では、定番商品の「リカちゃん」「ジェニー」「女兒ホビー」のほか、キャラクター商品の「ぴちぴちピッチ」とファッションドール「ブラッツ」を投入しましたが、市場に浸透する程には至りませんでした。また、生活玩具では、テレビ番組「ぴちぴちピッチ」に連動して「e-kara」を展開したほか、犬語翻訳機「パウリンガル」に続けて猫語翻訳機「ミャウリンガル」を発売しましたが、商品開発長期化の影響もあり、目標数値には至りませんでした。そのほか一般玩具では、今期発売35周年を迎えた「人生ゲーム」が、大幅に売上を伸ばしました。

■売上高



リカちゃん ©TAKARA CO.,LTD.2004



デュエル・マスターズ TM and ©2004.wizards of the Coast/shogakukan,Mitsui/Kids, shoPro

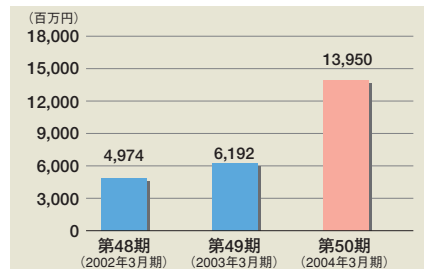
アミューズメント事業

アミューズメント複合施設の拡充で、売上、利益が大幅増

当社のグループ子会社(株)タカラアミューズメントにおいて、キャッシュレス店舗運営システム「ATOシステム」の開発導入やつり堀施設の運営を行うほか、入場者の年齢層を広げるための施設の複合化などに取り組みました。その効果もあり、今期は売上、利益とも好調に推移することができました。さらに(株)アトラスの業務用アミューズメント機器事業とアミューズメント施設事業の下半期業績を加えた結果、今期の売上高は139億5千万円(前期比125.3%増)、営業利

益は11億8千5百万円(前期比243.0%増)と、売上、利益とも大幅に伸長しました。

■売上高



ゲームパニック東京((株)アトラス)

家電・電熱事業

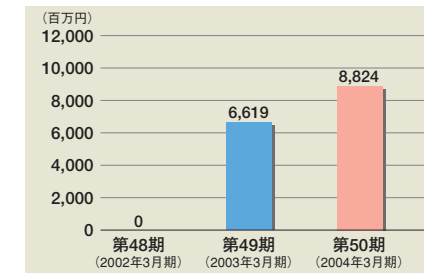
自社ブランド家電を展開、来期の収益確保を目指す

当社のグループ子会社、日本電熱(株)によって運営されている家電・電熱事業。今期は産業用電熱機器製品および家庭用暖房機器製品などの販売を行うほか、プロダクトデザイナー・深澤直人氏との共同プロジェクト「±0(プラスマイナスゼロ)」をスタートし、当社オリジナルのブランド家電製品を企画・開発・販売しました。しかし、生産の遅れなどが影響したため、売上、利益とも目標数値には達しませんでした。

その結果、今期の売上高は88億2千4百万円(前期比33.3%増)となりましたが、営業損

失が1億6千1百万円(前期は2億1千3百万円の営業利益)と、厳しい推移となりました。

■売上高



日本電熱(株)事業



家電ブランド ±0(プラスマイナスゼロ)加湿器 ©TAKARA CO.,LTD.2004

その他の事業

新規事業を続々スタート、運営の安定化と収益化を推進

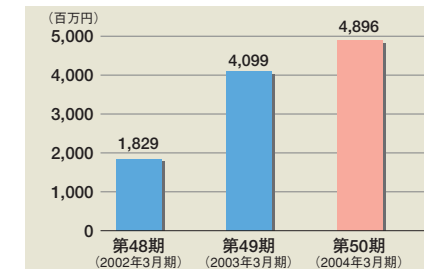
ホームセンター事業は、エコ事業商品など、自社ブランド商品の企画販売および差別化による市場創造戦略を展開しましたが、売上が計画に届かず営業損失を計上しております。また、電気自動車事業ではQ-CARの普及を目的に、地域ネットワーク型エコロジー活動としてTOKYO-Q-NETをスタートさせ、市場の拡大を図っております。

その結果、今期の売上高は48億9千6百万円(前期比19.4%増)となりましたが、営業損失が5億4千8百万円(前期比219.1%増)となりました。



えこりな

■売上高



TOKYO-Q-NET

連結財務諸表

貸借対照表(要旨)

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|-----------------|----------------------|----------------------|---------------|
| | 当期 (2004年3月31日現在) | 前期 (2003年3月31日現在) | 増減金額 (△は減) |
| ●資産の部 | | | |
| I 流動資産 | 54,962 | 42,603 | 12,359 |
| 現金及び預金 | 16,137 | 13,828 | |
| たな卸資産 | 15,820 | 7,810 | |
| その他 | 23,005 | 20,963 | |
| II 固定資産 | 34,281 | 22,676 | 11,605 |
| 有形固定資産 | 18,029 | 13,064 | 4,964 |
| 建物及び構築物 | 7,706 | 5,708 | |
| 機械装置及び運搬具 | 617 | 631 | |
| 工具器具備品 | 5,129 | 2,819 | |
| 土地 | 4,520 | 3,735 | |
| その他 | 55 | 170 | |
| 無形固定資産 | 1,389 | 1,038 | 351 |
| 投資その他の資産 | 14,862 | 8,573 | 6,288 |
| III 繰延資産 | 15 | 31 | △15 |
| 資産合計 | 89,259 | 65,310 | 23,949 |

【貸借対照表】

●資産の部概要

(株)アトラス、(株)プロックリー、(株)ワコー等の連結子会社が増えたことなどにより、前連結会計年度より239億4千9百万円の増加となりました。

●負債、少数株主持分及び資本の部概要

資産同様に連結子会社の増加に伴い136億8千1百万円の増加となりました。資本につきましては、当期純利益が7億9千9百万円あり、その他有価証券評価差額金、配当金の支払等の結果、8億9千7百万円の増加となりました。

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|------------------------|----------------------|----------------------|---------------|
| | 当期 (2004年3月31日現在) | 前期 (2003年3月31日現在) | 増減金額 (△は減) |
| ●負債の部 | | | |
| I 流動負債 | 37,252 | 29,880 | 7,371 |
| 短期借入金 | 16,872 | 14,623 | |
| その他 | 20,379 | 15,257 | |
| II 固定負債 | 17,849 | 11,539 | 6,309 |
| 社債 | 7,620 | 7,100 | |
| 長期借入金 | 3,616 | 1,120 | |
| その他 | 6,613 | 3,318 | |
| 負債合計 | 55,101 | 41,420 | 13,681 |
| ●少数株主持分 | | | |
| 少数株主持分 | 10,042 | 672 | 9,370 |
| ●資本の部 | | | |
| 資本金 | 18,121 | 18,121 | |
| 資本剰余金 | 5,595 | 5,595 | |
| 利益剰余金 | 1,907 | 1,806 | 100 |
| 土地再評価差額金 | △1,493 | △1,189 | △304 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,188 | △217 | 1,406 |
| 為替換算調整勘定 | △425 | △121 | △304 |
| 自己株式 | △777 | △777 | △0 |
| 資本合計 | 24,115 | 23,218 | 897 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 89,259 | 65,310 | 23,949 |

損益計算書(要旨)

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|-----------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------|
| | 当期 自2003年4月1日 至2004年3月31日 | 前期 自2002年4月1日 至2003年3月31日 | 増減金額 (△は減) |
| 売上高 | 107,261 | 85,692 | 21,569 |
| 売上原価 | 76,501 | 58,964 | 17,536 |
| 売上総利益 | 30,759 | 26,727 | 4,032 |
| 販売費及び一般管理費 | 25,963 | 19,650 | 6,312 |
| 営業利益 | 4,796 | 7,077 | △2,280 |
| 営業外収益 | 547 | 199 | 348 |
| 営業外費用 | 2,220 | 1,115 | 1,104 |
| 経常利益 | 3,124 | 6,161 | △3,036 |
| 特別利益 | 2,243 | 684 | 1,558 |
| 特別損失 | 3,575 | 2,611 | 963 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,792 | 4,234 | △2,441 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 274 | 290 | △16 |
| 法人税等調整額 | 358 | △44 | 402 |
| 少数株主利益(減算)又は少数株主損失(△) | 360 | △4 | 365 |
| 当期純利益 | 799 | 3,993 | △3,193 |

【損益計算書】

●連結損益の概要

当連結会計年度の業績につきましては、(株)アトラス、(株)プロックリーの下半期業績を加えたことにより、売上高は前期比25.2%増の1,072億6千1百万円となりましたが、経常利益は31億2千4百万円(前期比49.3%減)となり、これに投資有価証券売却益等の特別利益を加え、たな卸資産評価損等の特別損失を控除して、当期純利益は7億9千9百万円(前期比80.0%減)となりました。

【キャッシュ・フロー計算書】

●連結キャッシュ・フロー計算書概要

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に対して19億8千6百万円増加し、156億1千4百万円となりました。当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加および仕入債務の増加により、30億2百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入から建物、玩具製造用金型、アミューズメント設備等の固定資産の取得および新規の関係会社株式の取得による支出を差し引き、29億2千1百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、長期および短期借入金による収入等から配当金の支払い、長期借入金の返済等を差し引き21億7千3百万円の収入となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要旨)

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------|
| | 当期 自2003年4月1日 至2004年3月31日 | 前期 自2002年4月1日 至2003年3月31日 | 増減金額 (△は減) |
| I 営業活動によるキャッシュ・フロー | 3,002 | 4,561 | △1,559 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,921 | △5,016 | 2,094 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | 2,173 | 4,873 | △2,700 |
| IV 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △313 | △314 | 1 |
| V 現金及び現金同等物の増加額 | 1,940 | 4,104 | △2,164 |
| VI 現金及び現金同等物の期首残高 | 13,627 | 9,523 | 4,104 |
| VII 現金及び現金同等物の新規連結による増加 | 45 | — | 45 |
| VII 現金及び現金同等物の期末残高 | 15,614 | 13,627 | 1,986 |

剰余金計算書(要旨)

| 科目 | (単位:百万円) | |
|-----------------|---------------------------------|---------------------------------|
| | 当期 自2003年4月1日 至2004年3月31日 | 前期 自2002年4月1日 至2003年3月31日 |
| ●資本剰余金の部 | | |
| 資本剰余金期首残高 | 5,595 | 5,595 |
| 資本剰余金期末残高 | 5,595 | 5,595 |
| ●利益剰余金の部 | | |
| 利益剰余金期首残高 | 1,806 | 1,747 |
| 利益剰余金増加高 | | |
| 当期純利益 | 799 | 3,993 |
| 利益剰余金減少高 | | |
| 1. 配当金 | 699 | 699 |
| 2. 土地評価差額金取崩額 | — | 3,234 |
| 利益剰余金期末残高 | 1,907 | 1,806 |

【剰余金計算書】

●配当金

少子高齢化の定着する市場環境下、既存概念にとらわれず市場と需要を創造していくことをメーカーの使命と位置づけ、恒常的な業績向上と企業価値の最大化に引き続き努力してまいります。その結果として内部留保の充実を図りつつ、継続的かつ適正な利益配分を行っていきたくと考えております。

貸借対照表(要旨)

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|-----------------------|----------------------|----------------------|---------------|
| | 当期 (2004年3月31日現在) | 前期 (2003年3月31日現在) | 増減金額 (△は減) |
| ●資産の部 | | | |
| I 流動資産 | 25,009 | 29,329 | △4,319 |
| 現金及び預金 | 4,576 | 8,463 | |
| たな卸資産 | 5,780 | 4,844 | |
| その他 | 14,651 | 16,022 | |
| II 固定資産 | 27,241 | 19,851 | 7,389 |
| 有形固定資産 | 7,821 | 7,374 | 446 |
| 建物 | 3,058 | 3,046 | |
| 工具器具備品 | 2,122 | 1,846 | |
| 土地 | 2,458 | 2,157 | |
| その他 | 181 | 323 | |
| 無形固定資産 | 740 | 199 | 540 |
| 投資その他の資産 | 18,679 | 12,277 | 6,402 |
| III 繰延資産 | 15 | 31 | △15 |
| 資産合計 | 52,266 | 49,212 | 3,054 |
| ●負債の部 | | | |
| I 流動負債 | 13,435 | 12,819 | 616 |
| 買掛金 | 2,723 | 2,856 | |
| 短期借入金 | 5,500 | 4,400 | |
| その他 | 5,212 | 5,562 | |
| II 固定負債 | 8,932 | 8,905 | 26 |
| 社債 | 7,000 | 7,000 | |
| 長期借入金 | 190 | 570 | |
| その他 | 1,742 | 1,335 | |
| 負債合計 | 22,368 | 21,725 | 642 |
| ●資本の部 | | | |
| I 資本金 | 18,121 | 18,121 | — |
| II 資本剰余金 | 5,595 | 5,595 | — |
| III 利益剰余金 | 6,590 | 5,258 | 1,332 |
| 利益準備金 | 13 | 13 | |
| 任意積立金 | 4,500 | 3,500 | |
| 当期末処分利益 | 2,077 | 1,745 | |
| IV 土地再評価差額金 | △1,493 | △1,189 | △304 |
| V その他有価証券評価差額金 | 1,169 | △214 | 1,383 |
| VI 自己株式 | △84 | △84 | — |
| 資本合計 | 29,898 | 27,487 | 2,411 |
| 負債、及び資本合計 | 52,266 | 49,212 | 3,054 |

損益計算書(要旨)

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|-----------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------|
| | 当期 自2003年4月1日 至2004年3月31日 | 前期 自2002年4月1日 至2003年3月31日 | 増減金額 (△は減) |
| 売上高 | 68,287 | 63,002 | 5,285 |
| 売上原価 | 49,978 | 43,926 | 6,051 |
| 売上総利益 | 18,309 | 19,075 | △766 |
| 販売費及び一般管理費 | 15,558 | 14,175 | 1,383 |
| 営業利益 | 2,750 | 4,900 | △2,149 |
| 営業外収益 | 1,147 | 359 | 788 |
| 営業外費用 | 591 | 408 | 183 |
| 経常利益 | 3,306 | 4,850 | △1,544 |
| 特別利益 | 1,694 | 606 | 1,087 |
| 特別損失 | 2,526 | 2,275 | 250 |
| 税引前当期純利益 | 2,474 | 3,182 | △707 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 20 | 14 | 6 |
| 法人税等調整額 | 399 | △49 | 449 |
| 当期純利益 | 2,055 | 3,217 | △1,162 |
| 前期繰越利益 | 293 | 2,033 | △1,740 |
| 中間配当額 | 271 | 271 | — |
| 土地再評価差額金取崩額 | — | △3,234 | 3,234 |
| 当期末処分利益 | 2,077 | 1,745 | 332 |

利益処分

| 科目 | (単位:百万円) | | |
|---------|---------------------------------|---------------------------------|---------------|
| | 当期 自2003年4月1日 至2004年3月31日 | 前期 自2002年4月1日 至2003年3月31日 | 増減金額 (△は減) |
| 当期末処分利益 | 2,077 | 1,745 | 332 |
| 利益配当金 | 451 (1株につき普通配当5円) | 451 (1株につき普通配当5円) | — |
| 別途積立金 | 1,000 | 1,000 | — |
| 次期繰越利益 | 625 | 293 | 332 |

ターゲットは大人の男性。「COREDO日本橋」に、
当社初の大型直営店「GARAGE(ガレージ)」をオープン。



1F/ City Cruising : 「Q-CAR」など乗り物を展示、販売。



「GARAGE」は、「ライフエンタテインメント企業」を目指す当社が、30歳～40歳代の男性をターゲットに設定、「親子のコミュニケーション」をテーマに、独自の遊び心でセレクトした商品を展示、販売するライフエンタテインメントショップです。店内は、1階(384.5m²)と2階(644.8m²)のメゾネット形態で、「My Favorite(自

分の中の“子供”に帰る)」「Silent Times(星空、科学、宇宙、未来に想いを馳せる静かな時間)」といったテーマに基づく9つのゾーンに分かれ、タカラ以外のメーカー商品も含め約10,000アイテムの商品を展示、販売しております。



2F/Dad's Nest & Gift Box : 「お父さんの巣」をテーマにしたDad's Nest(写真左側)。



2F/Field Life : アウトドア用品などを展示、販売。



2F/Gift Box : 「子供への贈り物」をテーマに輸入玩具を展示、販売。

株式の状況

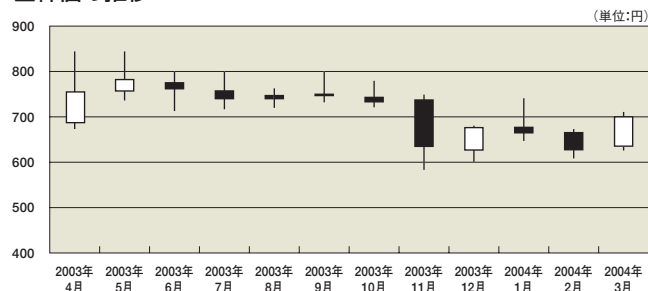
■株式の状況

会社が発行する株式の総数170,000,000株
 発行済株式総数90,462,244株
 株主数29,846名

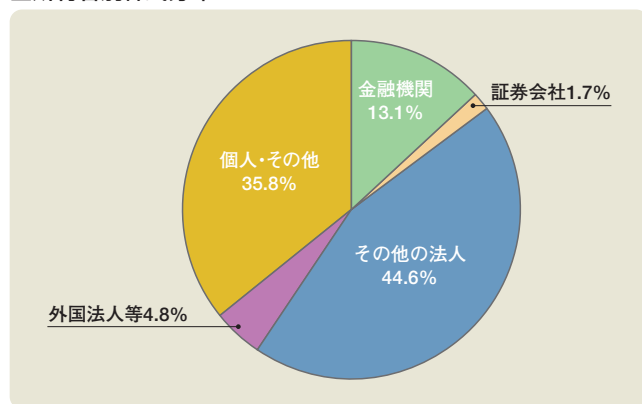
■大株主

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|-------------------------------|----------|----------|
| | 持株数(千株) | 議決権比率(%) |
| コナミ株式会社 | 20,104 | 23.0 |
| 株式会社 ティーエイケイ | 12,716 | 14.5 |
| 株式会社タカラミュージメント | 3,000 | - |
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) | 2,717 | 3.1 |
| 財団法人日本玩具文化財団 | 2,200 | 2.5 |
| 株式会社みずほ銀行 | 1,889 | 2.2 |
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口) | 1,858 | 2.1 |

■株価の推移



■所有者別株式分布



■株主に対する特典

2004年3月期 株主に対する特典
 2004年3月末現在100株以上をご所有の株主に対し、当社人気キャラクターの株主限定オリジナル商品セット(非売品)を贈呈

- 1,000株以上所有 ● オリジナルリカちゃん(5,000万体制記念デザイン仕様)1体
 ● オリジナルチョコQ(Q-CAR[U]スペシャル限定カラー仕様)1台
 ● オリジナル人生ゲーム(発売35周年サンクス記念仕様)



- 100株以上1,000株未満 ● オリジナルチョコQ(Q-CAR[U]スペシャル限定カラー仕様)1台



会社概要

□本社所在地 〒125-8503 東京都葛飾区青戸4-19-16
 TEL 03-3603-2131(代表)

□設立年月日 1955年9月17日

□資本金 181億2,169万5,096円(2004年3月31日現在)

□従業員数 494名(2004年3月31日現在)

□役員
 代表取締役 執行役員社長 佐藤 慶太
 取締役 奥出 信行
 取締役 執行役員副社長 館野 登志郎
 取締役 眞下 修
 取締役 木谷 高明
 取締役 永田 昭彦
 常勤監査役 野沢 武一
 常勤監査役 竹内 昭司
 監査役 水戸 重之
 監査役 野上 順
 監査役 大沼 昇

専務執行役員 水谷 英次
 専務執行役員 綿引 民雄
 常務執行役員 田中 紘一郎
 常務執行役員 久保 亮三
 執行役員 細屋 憲雄
 執行役員 岩田 松雄
 執行役員 須佐 謙一
 執行役員 小林 弘志
 執行役員 渡辺 洋子
 執行役員 黒木 健一

(2004年6月22日現在)

株主の皆さまへ アンケートのお願い

当社は、今後も中間/事業報告書を、株主の皆さまとのコミュニケーションの場として充実させてまいりたいと考えております。お手数ですが、次のアンケートにご意見、ご感想をお寄せください。(切手を貼らずにご投函ください。)

キリトリ線

株主の皆さまへアンケートのお願い

■本年の事業報告書はいかがでしたか

1. 満足できた 2. 不満足 その理由をお聞かせください
 ()

■本年の事業報告書で興味をもたれた記事はどれでしょうか(複数可)

1. 事業コンセプト 2. おもちゃ四方山話 3. 中期経営計画
 4. 財務情報 5. その他 それは具体的にどのような内容ですか
 ()

■今後掲載してほしい情報をお聞かせください

1. 新商品情報 2. イベント情報 3. GARAGE情報
 4. グループ会社情報 5. その他 それは具体的にどのような内容ですか
 ()

■当社株式を購入された理由をお聞かせください(複数可)

1. 経営理念 2. 将来性 3. 収益性 4. 事業内容
 5. 株主優待 6. タカラファンだから 7. 証券会社のすすめ
 8. その他 ()

■今後、当社株式についてどのような方針をお持ちでしょうか

1. 買い 2. 売り 3. どちらでもない

■決定する際の判断材料をお聞かせください(複数可)

1. 株価 2. 配当 3. 将来性 4. 業績 5. 株主優待
 6. その他 ()

■ご意見・ご感想があればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

キリトリ線